

○事業所名	大崎むつみの里第2事業所（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年10月10日		2025年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2025年10月10日		2025年10月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月1日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、児童指導員、社会福祉士、作業療法士の資格を持った職員が専門性をもって療育を行っている。経験の長い職員が多く、新しい職員を育成する環境が整っている。	日々の職員の帰りの会などで周知が必要な出来事話し、様々なケースに合った療育を適切に行えるよう、職員間で話し合えるような環境が整っている。	定期的に職員研修を行い職員の育成を行う。多職種で連携して話し合いを行うことで視野を広げ、より良い療育につなげていく。
2	お子さんの支援について保護者と共通理解し、相談できる環境が整っている。	親子通園日があるため、集団の中でのお子さんの様子を実際に見てもらいながら、一緒に課題について話し合うことと共に行えるようになったことを褒め、一緒に喜びを共感している。	今後もお子さん中心の支援が行えるよう。親子通園時や、連絡帳で丁寧にお話を伺っていく。必要に応じて面談も随時お受けしていく。
3	地域の保育園との交流	公立保育園1園、私立保育園1園との交流保育を年10回実施。年少児から年長児のお子さんと一緒に活動に参加している。	引き続き交流保育を通して、同年代のお子さんと一緒に活動に参加することで、お友達の模倣や関わりが増えていけるよう支援していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の老朽化により、設備や備品が古くなっている。	市の大規模修繕の延期により、かなり古い設備のままとなっている。	日々の整理整頓、清掃で清潔を保ち、少しでもお子さんが安心して過ごせるように心掛ける。装飾などで楽しさと明るさを心掛けていく。
2	感覚遊具を室内に設置できない。	天井等の状況から、感覚遊具設置のための設備をつけることができない。	園庭遊びの際にブランコや、鉄棒、砂場のキウイ棚等に、ハンモックなどを設置し、安全に揺れ遊びができるよう工夫していく。
3	利用者のニーズが多様化しているため、全部に対応しきれていない。	児童発達支援センターとしての本来の役割と、利用者からのニーズの変化に対応しきれていない。今年度は、幼稚園、保育園との併行利用をお受けすることとした。	児童発達支援センターとして必要な部分は大切にしながら、時代の変化に合わせ、今後も必要に応じて保護者からのニーズへの対応を検討していく。